

旧余呉小学校の 再生に懸ける想い

まちをまるごと美術館に

場をつくる「余呉まるごと里山芸術 館に見立て、多様な芸術との出会いの余呉地域の美しい秋の風景を美術

なら10 では26 となります 所で行われ、「地域がまるごと美術館」 芸術作品の展示や音楽、舞台などが各 の豊かな地域資源を生か1日~11月4日の10日間、 日間、余呉

術や文化の創造活動を育む学 たくさん詰まった旧余呉小学校。メイン会場は、地域住民の思い品 校となった同校が大勢のボランテ の力により清掃・整備・改修され、芸 び舎と 出が 廃

挑戦が始まっています して、ここに蘇りました。 芸術と人、歴史、地域を結び、まちを 、そんな地域の人たちの

まちづくり 芸術・文化を基軸とした

N余呉実行委員会」の代表で、旧余呉このイベントを主催する「芸術村I 小学校の卒業生でもある中山さん。 中山さんや実行委員会のメンバー



▲清掃作業の様子

ど、多くの人が文化芸術に親しみをも創作オペラの公演が地域に根差すな

また、余呉を盛り上げようと始まった奏会、絵画展等を開催してきました。

ギャラリーを開設し、んがら座」「弥吉」と

コンサ

や演

た小劇場・

論に至りました。 む、楽しみながら生きる、それを叶、は何か」を議論する中で、「生活を楽 大切か」、「余呉に最も欠けているものは、「余呉を元気づけるためには何が れるものが芸術文化だ」という結 を叶え

感しました。それ以来、「芸術・文化ながりで伝わるもの」ということを実術は、言葉などではなく、心と心のつの光景をみて、中山さんは「文化や芸いていたお年寄りが拍手喝さい。そ の想いを強めました。は、心の過疎を防ぐための切り札」と イタリア語の歌詞にもかかわらず今年行われたコンサートでは、今 喝さい。それらず、聞

ました。地元住民が主体となって「べの取組みを盛んにする雰囲気がありもともと余呉には、文化芸術活動へ



理事長 中山 克己さん (余呉町中之郷)

実行委員会

丹生 善喜さん(余呉町上丹生)

と連携した「交藝の郷づくり事業」へあってこそ「芸術村」へとつながり、市えてきました。そんな文化的基盤が 校を起点にして余呉の魅力を発信し 小学校のごけら落と と発展して 今回の れます。 イベントは、再生 いるのです 山さんは、「旧余呉 した旧余呉 して開催 小学

住むことに誇りをもつ

と、意気込みを語りました 地域の活性化につなげてい

きたい

旧余呉小学校が閉校したの



環境美化に取り組んでいたことを思を育てていた場所を通り、学校全体で校の清掃中に、子どもたちがかつて花実行委員会に携わる丹生さんは、学





ばって掃除してくれた」と話します。 う』と、子どもたちは校も『最後だからなおさら しました。「閉校が決まっ は校舎 れいにした から

交流できる場として利用する話を聞堂だけでも残して、そこを地域住民が たそうですが、学校の象徴であったに取り壊されるのでは」と心配にな 余呉は丹生さんにとって教師生活 たとき、嬉しく思 して間もな 頃、「学校がすぐ ました。 た 講 つ

高齢化に対し、どのような対策を打 です。この地域が抱える人口減少やも含め、ずっと生まれ育ってきた地域 を巡らします。 つや

の魅力を知ってもらがある」と話します。な つながり、住むことに誇りがもてるま て『芸術村』を開催されることに意義 丹生さんは、「余呉全域を会場にし ってくる人の受入体制づくりに したいと考えて います 多くの・ い、都市 八に余呉 か ŧ 5

等で外へ出て行った子どもたちに と、胸のうちを語り ひ故郷の良さを知って 余呉の未来を見据え、「進学や就職 もらいたい」 ŧ

